

椿台春秋 天ぷらは嫌い！？

「剣客商売」「鬼平犯科帳」などで知られる作家の池波正太郎さんは食通としても有名である。「男の作法」の中で天ぷらの食べ方について綴っている。「てんぷら屋に行くときは腹をすかして行って、親の敵にでも会ったように揚げるそばからかぶりつくようにして食べなきゃ…」▼熱々の天ぷらを食する瞬間はまさに至福のときであるが、ゴルフ場の「天ぷら」はなかなかいただけない。といっても椿台カントリークラブのレストランの天ぷらのことを言っているのではない。手前みそながら椿台の天ぷらは美味しい▼いただけないのは、渾身の一打が高く舞い上がり、飛距離もでないいわゆる「天ぷら」ショットである。天ぷらが揚がると、ボールが高く上がるを掛けているのであろう。クラブフェイスの上部にボールが当たることによって「天ぷら」は発生すると言われている▼日本独特の表現ゆえに当たり前のことではあるが、英語での表現はまた別にある。「skied shot」。空にでも届きそうな高いショットとでも訳せそうである。なんだか英語の方がショックも小さくなりそうで不思議である▼天ぷら以外にも日本独特の和製英語ともいえる表現があるので覚えておきたい。風向きがプレーに大きな影響を与えるが、日本では向かい風をアゲインスト、追い風をフォローと言っているが、英語ではそれぞれ「head wind」「tail wind」と。ダフリは「thick shot」[トップは「thinned shot」と表現する。厚いショットと薄いショットと言い分けているようである▼プレー中は天ぷら、ダフリ、トップと縁のないショットを心がけたいが、なかなかそうはいかない。そこにゴルフの面白さ、深さがある。最後に同伴者の会心の一打に「ナイス ショット」と称賛の声をかけるが、これも英語では「good shot」が一般的。より気持ちを込めた言葉をかけたいなら「beautiful shot」という表現も。かけた方もかけられた方も気分はより高揚しそうな表現である。